



## ググンタナ(奨学生)

(ge gen ta na)

中国 内モンゴル出身

千葉大学大学院 修士課程2年

自然科学研究科 都市環境システム専攻

大学院を卒業してから、自分の専門について、もっと研究したい色彩科学専門の博士になりたいと思います。

趣味は読書、映画鑑賞、卓球です。

日本食の生物が食べられないので、今後挑戦したいです。

### 日本の習慣や常識で、あなたの国との違いについて

私は日本に来て2年が経ちました。たくさんの自分の国と違った日本の習慣を知りました。

今自分もよく日常生活で使っている日本人の習慣はご飯を食べる前と食べた後に“いただきます”と“ご馳走様でした”という言葉を使うことです。私の国にはこんな習慣がまったくありません。それで私はこの習慣に興味を持ち始めました。

いろいろな日本の友達に聞いたところ、これは礼儀で特別な意味もあるそうです。その意味とは今日も“ご飯が食べられてありがとうございます”“お母さんにご飯を作ってもらってありがとうございます”という様々な感謝の気持ちを込めて言っているそうです。

私はこの習慣の意味を知って感動しました。自分もこれから日常生活でこんなきれいな言葉を使おうと思いましたが最初はやっぱりよく言い忘れてしまいましたが今やっと慣れてきました。

私は今この言葉を使うたびに自分がとても幸せな生活を送っていると思います。だから今後、どこに行ってもこの習慣をずっと続けようと思っています。

また日本と中国の食べ方の習慣もずいぶん違います。私は日本に来てまもない時でした。中華料理の店でアルバイトを始めた時、店の先輩にどんな料理を出してもスプーンとお客様の人数に合わせた小皿をつけてください。これとても大事なことでよって言われましたがその時先輩に理由を教えてくださいませんでした。つい最近私は研究室の日本人の先輩を家で招待していろいろな料理を作りました。“いただきます”って言ったが先輩が食べようとしませんでした。“口に合わないですか”って聞いたら先輩が“私は小さい時から母に料理は取り分けてから食べるものですよって教育をされたので取り分けなままみんなでお皿から料理を取って食べるのはとても汚い感じがします”って答えました。今回のきっかけでアルバイトの時の謎も解けましたし、同じ料理を食べるにも国によって食べ方が違うことを知りました。

日本に来てもうそろそろ2年になりますが本当にいろいろな自分の国と違う習慣を身につけました。これからも自分の日常生活で生かして行きたいと思っています。

OSFのメールアドレスが変更になりました: osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp

OSFのメールアドレスが変更になりました: osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp

## ラジブ シュレスタ (緑町家族宿舎生)

(REJEEB SHRESTHA)

ネパール サブ・ミニシパル市出身

千葉大学大学院 博士後期1年

人文社会科学研究科 公共研究専攻

多国籍の人々と共に、生活することによって多国の文化を、学ぶと同時に、ネパールの文化も伝達しながら、現在流行している協生の概念を実践的なアプローチで考察したい。

### —専攻科目の選考理由と将来の目標について—

私は現在、「公共研究」を専攻している。この科目の目的は、専門分野を社会全体に役に立てることにある。私は、個人性よりも社会性を重視していて、どうやって自分が社会に役に立てることができるかをずっと考えてきた。社会といっても富める者と富めざる者がいるわけだが、後者の味方である。私は貧しい家族で厳しい環境の中で育ててきたために貧しい人々の現状をよくわかっているつもりである。

日本にきて決して贅沢をしていないが、厳しい生活しながらもネパールの貧しい生活と比べて上品な生活をしている。日本にいてネパールの貧しい人々に楽しい生活が送れる手助けをできないのかと方法を探っているところである。博士課程の研究は国際協力NGOがネパールの各地で活動しているにもかかわらず、当該地域はさほど発展していないことに疑問を抱きながら出発したものである。それは人類学的手法を使った研究、つまりネパールで現地調査の上、関係者にインタビューを受けたりする調査方法になるが、現地の貧しい人々に接触し、詳しいことが聞けるためにやりがいがある。



将来の目標は紛れることなく自分が社会のために役に立てたいことである。それは間接的な社会貢献ではなく、積極的に表に出て日本で留学したらしき行動をしていくことである。その出発点として、既に、ネパールで一つのローカルNGOを立ち上げ、関係省庁に登録し、活動をし始めている。現在、誰よりの支援もないものの、個人的な力でネパールにおいて2箇所識字学級運営支援を行っている。

将来的に奨学金基金の設立と職業訓練所の設立と小学校の設立をNGOの主な目標である。私はその目標を達成させるべく社会の人間関係を大事にし、必要とされる社会貢献の業績を積み重ねながら意識改革が生じるように教育の面から後押しをしていきたい。個人的にネパールから海外に出てきた各個人が、当たり前である家族や親族のことのみならず、それを一段超えて何の関係もないもう一人の貧しい人の発展のために行動を起こしてほしいと考える。

